

# 離島・沿岸をつなぐ「命のみなとネットワーク」 ～天売島で海上輸送訓練を実施～

北海道開発局 留萌開発建設部

国土交通省では災害時の陸路分断等を想定し、“みなと”の機能を最大限活用した海上輸送による救助・救援や物資輸送等の災害対応支援を行うための、物流・人流ネットワーク「命のみなとネットワーク」の形成に向けた取組を進めています。

この取組の一環として、留萌開発建設部では令和7年10月1日(水)、留萌港湾事務所が保有する港湾業務艇「ゆりかもめ」を活用し、天売島への海上物資輸送訓練を実施しました。本訓練は、昨年実施した焼尻島への海上物資輸送訓練に引き続き、2回目の開催となります。

訓練では、留萌港より留萌開発建設部職員が「ゆりかもめ」に乗船し、羽幌港に向け出港。羽幌港到着後、羽幌町職員と連携し支援物資を船内に積み込み、沖合約30kmに位置する天売島まで海上輸送を実施しました。

天売港では、再び羽幌町職員と協力しながら支援物資の陸揚げ、および町車両による島内輸送を行ない、一連の輸送体制を確認しました。また、災害時の通信障害を想定した衛星携帯電話による通信訓練を行なうなど、情報伝達手段の有効性も検証しました。

留萌地方は南北約130km 東西約60kmに及ぶ細長い地形で、山地が多く道路が狭隘な地域です。このため、離島のみならず陸路が分断された際の孤立する集落への海上輸送も現実的な課題となります。今後もこうした訓練を重ねることで、地域の地理的特性に即した支援体制の構築と、管内各市町村との緊密な連携による「命のみなとネットワーク」の実効性向上を図ってまいります。

最後に、本訓練の実施にあたりご協力を賜りました羽幌町の皆様に心より感謝申し上げます。



留萌港湾事務所を出港する港湾業務艇(ゆりかもめ)



羽幌港で支援物資を積み込み



天売港で支援物資の積卸し



羽幌町の車両に支援物資を積み込み



衛星携帯電話を使用した通信訓練も実施